

つなごう命の会の 矢ヶ崎克馬 です。  
本日は 15 回目の「3.11」です。  
今回は「正しい物差しで被曝を見よう」です。

## 1 構造的暴力、

「311 子ども甲状腺がん裁判」の新しく原告に加わった方が「私の受けてきたものは**構造的暴力**です。命より国や企業の都合を優先する社会の中で、私たちの存在は無かったことにされていると気づきました」と述べています。

国際放射線防護委員会は、ICRP2007 年勧告で、もはや「健康保持を基本にした防護は行わない」内容の防護基準を発表し、日本国政府が日本の法律をことごとく破る事故対策を行い、司法は権力に従う判決を繰り返しました(法治主義の放棄)。福島県知事が甲状腺被曝線量測定をやめさせ、石棺の導入を「復興の妨げになる」と拒否しました(放射能汚染認識の排除・愚民視)。

子ども甲状腺がんを事故とは無関係とするばかりでなく、厚労省の人口動態調査からは 2011 年以降の死亡者の異常増加は 60 万人を数えています。各種固定がんや疾病の増加は歴然としています。しかし、それらの犠牲はすべて隠されています(放射線リスクの隠蔽)。地球温暖化を理由に原発をエネルギー源にしようとさらに政府は動いております。この大惨事を生じた原発事故を被害が無かったように取り扱い原発再稼働を進める構造はまさに「構造的暴力」です。

### 構造的暴力は核時代一貫している

原爆投下以来米国は直接被曝の線量を試算する以外に、放射性降下物(放射能の埃)による内部被曝を隠そうとしました。

オープンハイマーが「爆心地付近に放射性物質を降下させないよう、通常爆発と同じ被害しか出さないように、綿密に計算している」と言明したのをはじめとして、コリンズが『「原子爆弾の放射能が残っていないと証明するよう」言い付けていた』と証言するなど記録が残っています。

そもそも、放射線防護は、ラジウムが発見されて以来、核技術を発展させる立場から労働者などの被曝防護を語ってきましたが、核兵器が開発され以来、それが強化・加速されました。企業、政府、司法を巻き込んで核の推進構造はまさに「構造化」されてきたのです。主要なポイントは、核被害を事実として認識させない構造的暴力です。

欧州放射線リスク委員会が被害を受ける立場からの勧告を発しました。

ここで

### 科学に関する構造的暴力は、

- ① まさに医療現場から被曝概念を排除させることでした。臓器症状は確認しても、原因

考察から被曝を排除したことです。放射線被曝軽減策は医療指針にありません。

② ICRP 基準から被曝を見えなくすることです。被曝を見る物差しから「被ばく実態を排除」しました。

**ICRP 基準: 1mmを以てしてこれを1mとしなさいと物差しをでたらめにしています**

(1) 医療現場のことは前回述べました。医学界が構造的に被曝概念を排除した実態です。

(2) ICRP は因果関係の科学を無視して、リスクを全部架空の(シーベルトという単位の)線量だけに依存するとしました。

(3) この結果、被曝した体内での電離損傷と修復のせめぎあいを科学の対象から外しました。

(4) ICRP は正常な物差しを破壊しました。

例えていえば、1mという長さは世界で統一されてきちっとした物量として決められています。

しかし、それに対し ICRP は、『1mm の長さをしてこれを 1m としなさい』と強制しています。全く被曝リスクを語れない物差しを作ったのです。

(5) これによって、内部被曝の危険が見えないようにしました。被害組織を DNA だけに限定し、多量に発生する活性酸素、ミトコンドリア、細胞膜等々の被曝被害をネグレクトしました。

(6) 科学と医療の現場に正当な物差しが必要です。

## **2 日本放射線リスク評価委員会が設立されました**

**歪んだ物差しではなくて正規の物差しを作る運動です**

世界のどこでもどの国でも正しい放射線リスクの尺度で放射線リスクをありのままに認識し、人権を重んじるまさにこれも「基本的人権を守る構造」で、世界市民の健康を守ることができる体系を作ります。

「科学と人権に基づく被曝評価体系の確立」を目指します。

東電福一事故をはじめ被ばくによる悲惨な被害が生じていますが、原爆による被曝を含めて被害を確認します。科学的に確認できる体系を作ります。

被曝による被害から全世界の住民を救うために「勧告」などを実施し、世界の政府に「科学と人権に基づく被曝評価体系」を住民防護原則と使用し防護に役立てられることを目指します。

**賛同される方はぜひ**

**日本放射線リスク評価委員会に**

**ご入会ください。お力を合わせましょう。**

**詳細は <https://jccra.org/> をご覧ください**

**会の趣意や規約があり、入会手続きもご案内しています**

とても重要な組織と認識いたします。

何故重要かというと、

①ゆがめられた放射線被曝の物差しを正規の科学的物差しにいたします。「科学と人権に基づく放射線被曝体系」を作ります。

③ 構造的暴力を排除します。構造的暴力は主として二つあり、原子力ロビーの核産業擁護と日本政府筋の「法治主義の放棄」です。

放射線被曝による健康被害が重大であるだけ一層政府や原子力ロビーにより隠されていることです。きちんと被害をカウントします。

③核の被害で深刻な圧政に苦しむ日本から発して世界の国に届けようとする事です。

3.11以降、ほしいままにふるまわれてきた基本的人権を持つ日本市民が、被害を教訓として立ち上がる事です。

### 3 学習会のご案内

つなごう命の会の定例学習会はしばらく休憩していますが、関連学習会のご案内です。

どうぞ お気軽にご参加ください。

#### JCRRRA 主催 講演・学習会(第3回)

2026年3月26日(木)午後7時30分から9時

(zoom にて開催)

講師 遠藤順子医師

題名「放射線によるミトコンドリア障害と疾患」

お申し込みは

<https://x.gd/l9YDd> (Google フォーム) からどうぞ。

つなごう命の会 矢ヶ崎克馬 20260308